

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

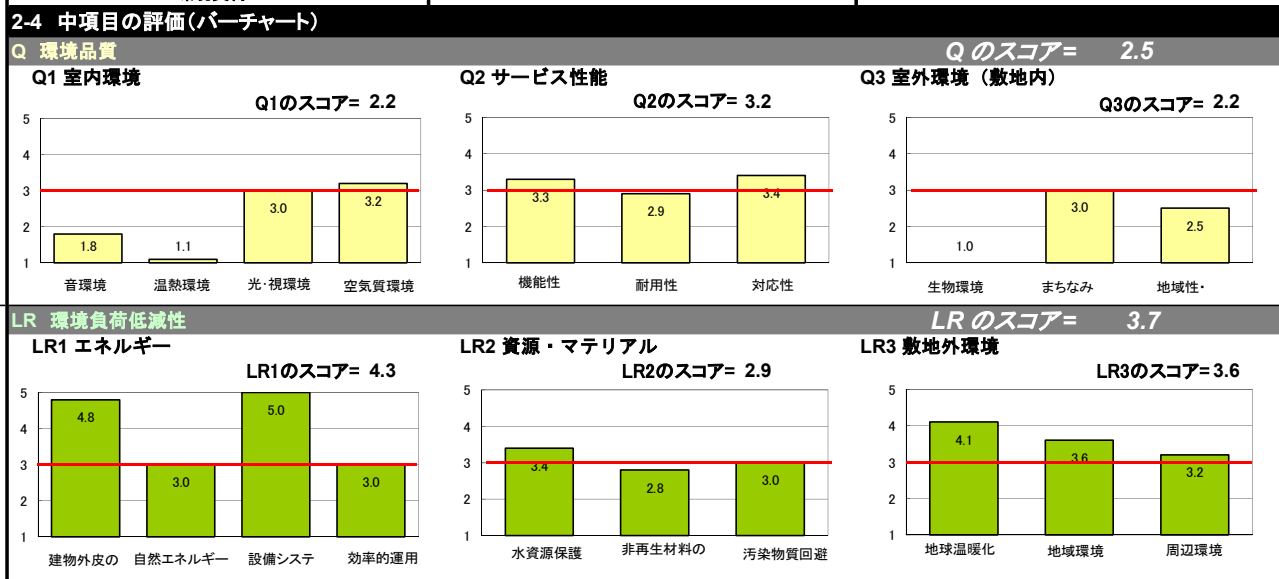
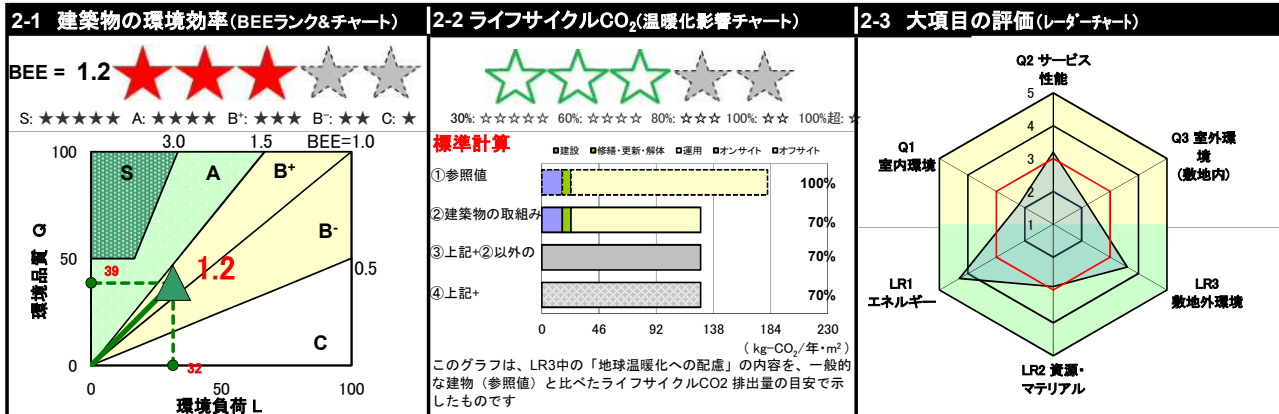
CASBEE札幌



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)TRIAL札幌屯田店	階数	地上1F
建設地	北海道札幌市北区屯田9条12丁目1番1	構造	S造
用途地域	第1種住居地域.指定なし	平均居住人員	3,000 人
建物用途	物販店.	年間使用時間	8,700 時間/年(想定値)
竣工年	2018年10月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	13,000 m ²	評価の実施日	2018年6月18日
建築面積	3,018 m ²	作成者	園田
延床面積	2,990 m ²	確認日	2018年6月19日
		確認者	吉永



3 設計上の配慮事項			
<p>総合</p> <p>不特定多数の方が利用する施設であるため、安全に配慮した設計を目指している。道路面からの圧迫感に配慮し、後退した位置へ建物を配置し、平屋の計画とした。また、周囲との景観の調和やまちなみへの潤いを生み出すために敷地周囲に緑地を配置した。</p>		<p>A 省エネルギー</p> <p>高効率の照明、空調機器を採用し、省エネルギーに努めた。</p>	
<p>B 省資源等</p> <p>節水コマ・省水型機器を採用し、水資源保護に努めた。</p>	<p>C 緑化</p> <p>敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。</p>	<p>D 雪処理</p> <p>積雪による被害を防ぐ為、庇面積を少なくした。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
 (仮称)TRIAL札幌屯田店

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能 省エネ								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備 省エネ								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御 省エネ								
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質 使用する建築材料は全てF☆☆☆☆とする。								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.2
1 機能性			3.3	0.40		-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40		-	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.6	0.30		-	
1	広さ感・景観 (天井高)	売場平均天井高: 5.31m	5.0	0.33		-	
2	リフレッシュスペース		2.0	0.33		-	
3	内装計画	①生鮮を扱う為クレンリネスを意識した内装。②メンテナンスフリーを求められている為、床にセラミックタイルを採用。③生鮮エリアは冷ケースによる照明やスポット照明などの演出があることから商品を際立たせるようエリア照度を落として、日用品エリアと区別している。	4.0	0.33		-	
1.3 維持管理			3.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	①掃除用具庫の設置②掃除流しの設置③生ゴミ庫、作業場の床は水勾配を計画④生ゴミ庫の設置⑤フロア毎に掃除用流しを設置⑥掃除作業を想定した電源を計画⑦専用部以外の諸設備は共用部での維持管理作業ができる(PS)	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.1	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	2.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	5.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.6	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性					3.4	0.30		-	3.4
3.1 空間のゆとり					5.0	0.30		-	
1 階高のゆとり				階高: 4.552m	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率: 0.08	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性					2.6	0.40		-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性					3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性					1.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			緑化		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			緑化		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			雪処理		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			省資源 緑化		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			省エネ	[BEI][BEIm]=0.82	4.8	0.20		-	4.8
2 自然エネルギー利用			省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化			省エネ	[BEI][BEIm] = 0.66	5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用					3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			省エネ		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-		-	
4.1 モニタリング			省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制			省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護					3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水				節水コマ・泡沫・省水型機器の採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.8	0.60		-	2.8
2.1 材料使用量の削減			省資源		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			省資源		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			省資源	LGS下地・躯体と仕上げ材が容易に分別可能、内装材と設備が錯綜せず、容易に取り外し可能	5.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.6
1 地球温暖化への配慮		省資源	ライフサイクルCO2排出率:70%	4.1	0.33		-	4.1
2 地域環境への配慮				3.6	0.33		-	3.6
2.1 大気汚染防止		省資源	燃焼機器の使用なし(電気温水器)	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 悪化 雪処理		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	必要対策量以上の流出抑制を行っている	4.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		駐輪・駐車・管理車両や荷捌き車両の駐車スペース確保、駐車場導入路への配慮	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音			3.0	1.00		-	
2	振動			-	-		-	
3	悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制			3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制				-		-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		「光害対策ガイドライン」のチェックリストの過半を満たす	5.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要					
建物名称	(仮称)TRIAL札幌屯田店	BEE	1.2	BEEランク	B ⁺
建物用途	物販店,				
延床面積	2,990.4 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	
	緑化	
	雪処理	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 7.2)		合計		19.3点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア	0.4 /0.6	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.8 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.5 /2.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計		15.7点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 /1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.1 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	3.2 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計		7.4点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計		0.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数
 ■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数